

1 はじめに

「災害に負けない支え合いの地域へ」

平成30年は、地震、大型台風の到来、記録的な猛暑など、日本各地で大規模な自然災害が数多く発生しました。

とりわけ倉敷市においては平成30年7月豪雨災害により多くの方が被災し、今もなお、住み慣れた自宅や地域を離れて生活を送る方も多く、被災地復興はこれからが本番と言えます。

今回の豪雨災害は甚大な被害を私たちに与えました。

災害が起こらないようにすることは、現在の人の力では限界がありますが、日頃から「備え」、日常の暮らしのなかで地域の気になる方を「見守り」、災害発生時には地域のつながりのなかで「支え合う」、災害に負けない地域づくりを世代や立場の垣根をこえて、これまで以上に進めていくことが重要です。

被災地やその周辺の地域に目を向けてみると、復興に向けた支え合いの萌芽は至る所にみられ、これまで地域が大切に育ててきた絆や文化を活かし、被災者・被災地を支えながら、復興に向かっていく「支え合い活動」を数多く知ることができました。

この「被災地発支え合い活動事例集『豪雨ニモマケズ』」は、そのような支え合い活動の取り組みや地域で活躍する支援者「支えびと（ささえびと）」を紹介する情報等をまとめたものです。

災害だけでなく、高齢化、人口減少、担い手不足、孤立化等すべての地域の課題解決の糸口にもなる支え合い活動や元気な地域づくりの実現に向け、多くの方にこの事例集をご活用いただき、被災地の復興や支え合いの地域づくりの一助となれば幸いです。

